

小美玉市で発見された4世紀の方形周溝墓

殿島遺跡の調査

殿島遺跡は市中央部の宮田字殿島に位置し、園部川支流の沢目川左岸、標高22mほどの台地端部に立地しています。

主要地方道玉里水戸線道路改良事業に先立ち、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成26年度に発掘調査を行いました。調査の結果、縄文時代の竪穴建物跡14棟、陥し穴4基、古墳時代の竪穴建物跡2棟、方形周溝墓1基、平安時代の竪穴建物跡2棟などを確認しました。主な出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器などです。



遺跡の立地

殿島遺跡の方形周溝墓

殿島遺跡で注目される遺構に、古墳時代前期の方形周溝墓があります。古墳時代とは大和王権の首長層が、日本列島各地で前方後円墳に代表される巨大な墓(古墳)を造った時代で、3世紀後半から7世紀末頃までとされています。方形周溝墓は弥生時代から古墳時代前期にかけての墓で、埋葬施設を方形の溝で囲むように造られていることから、方形周溝墓と呼ばれています。

殿島遺跡の方形周溝墓は、出土した土器から4世紀中頃のものと考えられています。古墳時代前期の方形周溝墓は、その時期の前方後円墳や前方後方墳などの古墳に比べ規模が小さく、群をなして造られることが多いことから、集落の長クラスの家族墓という説もあります。

第1号方形周溝墓

殿島遺跡の第1号方形周溝墓は、調査区の中央部西端で確認されました。南北幅は外法で15・2mあ

り、やや大型のものです。方形に区画された溝の内側のほぼ中央に埋葬施設が見つかりました。この方形周溝墓に接して、北側に3、4号溝があります。この溝は南側が第1号方形周溝墓に壊され、カタカナの「コ」の字状となっています。溝の覆土からは、古墳時代前期の壺などが出土しており、方形周溝墓の可能性があります。殿島遺跡においても、方形周溝墓は群を形成していたと思われる。



第1号方形周溝墓の全景

第1号方形周溝墓の周溝からは、底に穴があげられたり、打ち欠かれたりした土師器の壺などが出土しました。亡くなった人を弔う儀式を行った痕跡と考えられます。また、壺の一部には北陸地方の影響を受けた器形のものも出土しており、遠隔地の人々との交流がうかがえます。



第1号方形周溝墓から出土した土器

市内では、権現平古墳群(下玉里)で方形周溝墓が発見されています。南北幅が25〜28mと大型のもので、東海地方の土器が数多く出土しています。古墳時代前期の当地域への進出の背景には違いがみられるようです。

(市文化財保護審議会)

会長 海老澤稔